

中学生用金融教育教材

社会科(公民的分野)

私たち中学生で 会社をつくろう

—実際の起業体験を通して、
経済の仕組みを学ぼう—

指導書

金融広報中央委員会とは？

金融広報中央委員会（事務局：日本銀行情報サービス局内）は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、国民に対し、中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

■執筆 <敬称略>

埼玉県春日部市立中野中学校教諭

小谷 勇人

■執筆協力 <敬称略>

「学校における金融教育推進のための教材研究会」委員

独立行政法人教職員支援機構

次世代型教育推進センター上席フェロー 大杉 昭英

文部科学省初等中等教育局教科調査官・

国立教育政策研究所教育課程研究センター

研究開発部 教育課程調査官

樋口 雅夫

群馬県教育委員会事務局 義務教育課長

鈴木 佳子

その他執筆協力

東京都目黒区立東山中学校 主任教諭

三枝 利多

東京都江東区立第二亜戸中学校 非常勤教諭

仲村 秀樹

平成 30 年 3 月

社会科（公民的分野）

私たち中学生で会社をつくろう

— 実際の起業体験を通して、経済の仕組みを学ぼう —

指導書

■編集・発行 金融広報中央委員会
(事務局 日本銀行情報サービス局内)
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
03-3279-1111 (代表)
<https://www.shiruporuto.jp/>

© 金融広報中央委員会 2018
無断転載を禁じます。

金融広報中央委員会

私たち中学生で会社をつくろう

– 実際の起業体験を通して、経済の仕組みを学ぼう –

(総授業時間：社会科…14時間 総合的な学習の時間…7時間)

○実施学年、教科等

第3学年 社会科（公民的分野）+ 総合的な学習の時間

○単元の目標（社会科）

- (1) 市場経済の考え方や価格の決まり方・役割、社会における企業の役割と責任、金融に関する学習や、職業と勤労について関心を持ち、起業を実際に体験する活動を通して、金融の働きや職業の意義、経済に関する諸問題などを自らの問題として捉える。
- (2) 企業には、市場において公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増進させる役割があることや企業の経済活動が及ぼす社会的影響に対して公共の利益に配慮する社会的責任があることについて関心を持ち、多面的・多角的に考察し、その成果を自分なりに表現する。

○学習の評価（社会科）

- (1) 経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について関心を持ち、個人や企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりすることを通して、起業を実際に体験する活動で成果を上げている。

(会社事業計画書・実物販売会の成果)

- (2) 社会における企業の役割と責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について関心を持ち、個人や企業の経済活動に関わる様々な事象から課題を見いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。

(会社事業計画書・実物販売会でのCM)

○展開の特色

本授業は、実社会とのつながりを重視して金融経済を学ぶことができるよう、個人や企業の経済活動について、実際に起業を行う体験を通して理解させるプロジェクト型学習となっている。特に、会社事業計画書を練り上げ、模擬労使交渉、実際にモノづくりを行うなど、リアルな企業経営を意識して授業を構成した。さらに、経済活動の意義、金融の仕組みなどの市場経済の基本となる考え方を身に付け、企業経営に役立たせるような学習になるよう工夫している。

○「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目*

*記号については『金融教育プログラム【全面改訂版】』P.32~45参照。

Aーア・イ、Bーア・イ・ウ・エ、Cーア、Dーア・イ・ウ

○学習内容のキーワード

生産、消費、選択、希少性、勤労、社会的責任、流通、競争、金融

○その他

- ・ワークシートの学習に入る前に、教科書などを使用して基本事項の習得をする必要がある。
- ・実物販売会では商品やお金の事前準備が必要となる。管理職との相談や職員会議等で理解を得る必要がある。
- ・実物販売会の詳しい注意事項については最後のページに示している。なお、社会科の14時間の時数が取れない場合の対応についても示している。その場合、ワークシートは適宜抜粋して、授業実践を行って頂きたい。

○ 指導計画

時数は社会科の時数を入れてある。総合的な学習の時間は「総1」のような表現とする。

学習過程	時数	・ねらい	● 学習内容・学習活動	◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・その他（資料等）
課題把握	1	・経済活動の意義や市場経済の基本となる考え方などに関する理解を基に、経済の仕組みや企業の活動について関心を持ち、意欲的に課題を追究する。	●自分のつくってみたい商品（モノ・サービス）の内容や価格を考える。 ●価格の果たす役割を考える。	◆市場経済において価格が希少資源を効率よく配分する働きを持つことを捉えさせる。	★「希少性」を捉えさせる。 ★需要と供給のバランスにより価格が決定していることに着目させる。	・個人事業計画書 ・需要曲線と供給曲線
	2					
	3	・会社をつくるに当たり、消費者の立場に立って消費生活の実態や問題点を調査し、企業が守るべき消費者の権利について関心を持ち、会社の在り方について意欲的に検討する。	●実際に商品を購入する立場から、自分のつくってみたい商品を評価するために必要な情報を入手する。	◆消費者基本法について理解し、消費者の権利や責任について知り、日常生活に活かす態度を身に付けさせる。	★消費者の立場に立つことで、企業が果たすべき役割に着目させる。 ★消費者の権利を守るために政府の施策について関心を持たせる。 ★契約や消費者被害について、技術・家庭で学んだ内容を生かすようにする。	・35歳の1か月の支出の内訳 ・食品偽装問題を報じる新聞記事 ・消費者問題の実態に関する資料 ・製造物責任法による裁判事例
	4					
	5	・企業経営を考えるに当たり、人々が求める財やサービスをつくり出す生産が企業を中心に行われていることや、企業の経済活動が及ぼす社会的影響に対して社会的責任があることなどを多面的・多角的に考察する。	●企業を設立するグループを編成する。 ●会社事業計画書を作成する。 ●設立する会社の仕入れを工夫するために会議を持つ。 ●自分たちの会社が社会においてできることを考える。	◆株式会社の機能、社会的責任について、実際の企業づくりを通して実践的に理解させる。 ◆実際の企業づくりを通し、会社経営の仕組みや工夫、努力の必要性を理解させる。	★「分業と交換」を捉えさせる。 ★企業活動の目的として利潤を得ることがあることに着目させる。	・会社事業計画書 ・生徒たちがよく知っている企業のHP ・企業活動の仕組みに関する図 ・株式会社の仕組みに関する図 ・株価の比較 新聞記事
	6					
	7					
	8					
課題追究	総2					
	総3					
	9	・企業経営に当たり、市場における公正な活動、労働者の利益増進といった企業の役割や、銀行などの金融機関が行う金融の仕組みや働きなどを多面的・多角的に考察する。	●労働者の立場に立って、労働時間や賃金などの労働環境を考える。 ●労働をめぐる問題について考える。 ●金融の仕組みや働きについて理解する。	◆勤労の意義と社会における役割、及び勤労の権利と義務について理解させる。 ◆金融機関の種類と機能について理解させる。 ◆間接金融、直接金融に触れる。	★労使交渉を通して、従業員が仕事を通じて生きがいを得られるような会社運営が望ましいことに気付かせる。 ★日本銀行の役割についても触れる。	・従業員募集広告 ・労使交渉 ・営業プレゼン資料 ・年越し派遣村の新聞記事 ・金融の働きに関する図 ・日本銀行の金融政策に関する図
	10					
	11					
	12					
	総4					
	総5					
課題解決	13	・企業の生産活動などに関する今までに収集した諸資料の中から、学年の中で一番利益をあげる会社にするという課題の解決に役立つ情報を適切に選択して活用する。	●景気変動が自社商品に与える影響を考える。 ●実物販売会を行う。 ●実物販売会において、自社の販売する商品の売れ行きを通じて消費者からの評価を実感する。	◆個々人の消費や支出の行動が企業や社会に与える影響について考えさせる。	★体育館ステージ上のプレゼンにおいて、販売したい商品の説明を分かりやすく行わせ、消費者の購買意欲を喚起させる。 ★収支分析が「企業会計」の基本であり、企業・投資家・株式市場にとって重要なことを認識させる。	・実物販売会プレゼンメモ ・景気変動の仕組み（グラフ） ・収支報告書
	総6					
	総7					
新たな課題	14	・利潤配分について考えるとともに、経済情報を理解し、自分たちが企画した会社が置かれると予想される状況を多面的・多角的に考察し、考えをまとめる。	●変化の激しい世界や日本の経済状況を前提に、自分たちの会社や商品の未来像について検証する。 ●実物販売会での結果を振り返り、自社の商品について検証する。	◆景気や物価の変動が人々の生活に影響を及ぼすことを理解させる。	★自分の会社と、良いと思った会社や売り上げが多かった会社を比較させ、意見を述べさせる。	・実物販売会での利益分析 ・海外に市場を開拓する自動車会社の紹介HP ・授業の振り返りシート

○ 本時の展開（第1時） SCENE1 お金の使い方や経済の考え方で大切なことは何だろう？

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

本時（第1時）の目標
ア 経済活動が私たちの生活の中で果たしている役割を理解する。
イ 希少性に着目して考えることができるようになる。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・私たちに身近な商品が経済活動を通して手に入ることに興味・関心を持つ。	●知っているチョコレートの商品名を挙げ、原材料や原産国について調べる。		◆お金の役割を理解する。	★原材料としてはカカオ、砂糖、ココアバター、粉乳とする。	・チョコレートの現物商品の成分表示を紹介
展開	・限られた資源を分け合う際に働く概念として「希少性」について考える。 ・お金や時間など、何かを選択すると他の選択ができないなくなることについて考える。	●現実に起こりそうな事例に対して、自分の考えをまとめるとともに、他者の考えにも耳を傾ける。 ●お小遣いが2万円あったとしたら、どのような使い方をするかを考える。		◆財やサービスの有限性、希少性を理解し、よりよい選択をしようとする。 ◆効率、公正などの概念を用いてよりよい意思決定ができる。	★事例に対して意見を書いた後に、各グループで意見を共有させる（グループの人数は4人程度が好ましい）。 ★「希少性」を捉えさせる。	・ダイヤモンドを例にして「希少性」を説明
まとめ	・自分がつくる商品（モノ・サービス）の内容について考える。	●個人事業計画書としてまとめる。			★学んだお金の使い方や経済の考え方を活かすように助言する。	・個人事業計画書

○ 本時の展開（第2時） SCENE2 価格はどのように決まるのか？

授業の流れ：導入・まとめでワークシートを使用する。展開は教科書等を用いて行う。

本時（第2時）の目標
ア 市場経済における価格の働きについて理解する。

イ 需要と供給の関係性によって価格が変動する仕組みについて理解する。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・商品の価格が決まる理由に興味・関心を持つ。	●身の回りにあるモノやサービスの値段について、収集した情報を出し合って共有する。			★商品によっては店ごとに定価が異なることに着目させる。	・同じ商品で価格が違うチラシを提示
展開	・様々な商品について需要と供給の関係によって価格が変動する仕組みについて理解する。 ・市場経済において価格が希少資源を効率よく配分する働きを持つことを捉える。	●季節や採れる量によって野菜の価格が変動する仕組みを知る。 ●価格の働きについて考える。 ●富士山で売られている缶ジュースの値段が山頂に近づく程高くなる仕組みを考える。		◆需要曲線と供給曲線の読み取り方を理解する。 ◆市場経済において価格が希少資源を効率よく配分する働きを持つことを理解する。	★需要と供給のバランスで価格が決まることに着目させる。 ★価格が資源を調整する役割をしていることに着目させる。	・需要曲線と供給曲線の説明 ・授業で取り上げる野菜の現物を提示
まとめ	・本時の学習を自分の考えている商品と関連付けて捉える。	●自分の会社の商品（モノ・サービス）の値段を考える。			★自分の会社の商品について大体の値段を考えさせる。	

○ 本時の展開（第3時） SCENE3 消費者の生活には、どのような実態があるのだろうか？

授業の流れ：導入・まとめでワークシートを使用する。展開は教科書等を用いて行う。

本時（第3時）の目標
ア 経済の中で、家計の果たしている役割を理解する。

イ 消費生活を成り立たせている「契約」の考え方について理解する。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・限られた収入を有効に活用するため、消費と貯蓄の配分を合理的に行う必要がある。	●生徒の20年後である35歳をイメージして1か月の支出の内訳をつくり、ペア学習でお互い評価し合う。		◆生活設計の必要性を理解し、自分の価値観に基づいて設計を立ててみる。	★子どもがいる設定とするか否かなど、自分たちで自由に想像させる。	・35歳の1か月の支出の内訳を作成
展開	・消費生活がどのように営まれているのかを理解し、消費生活を成り立たせている「契約」について理解する。	●家計のバランスを保つために大切なことは何かを考える。 ●クレジットカードの仕組みを知る。 ●消費生活についての知識をおさえる。		◆契約の基本を理解し、日常生活において安易な約束をせず約束を守る態度を身に付ける。 ◆様々な決済の仕組みを理解する。	★現代社会では個人の意思で自由に契約できるという契約自由の原則についても触れる。	・クレジットカードの見本を提示して仕組みを説明 ・現在の発行枚数と利用額の推移を提示
まとめ	・消費者の立場で学習していることを会社づくりと関連付けて捉える。	●消費生活についてグループで話し合い、契約を結ぶ際に心掛けるべきことを理解する。			★消費者目線の会社はどのような会社であるべきか話し合う。	

○ 本時の展開（第4時） SCENE4 消費者の権利を守るために大切なことは何だろう？

授業の流れ：展開・まとめでワークシートを使用する。導入は教科書等を用いて行う。

本時（第4時）の目標 ア 私たち消費者の権利を守るために政府が行っていることを理解する。

イ 製造物責任を理解し、商品の購入・使用の際に活かす態度を身に付ける。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・消費者主権を守るために国や地方公共団体の役割が大切であることを理解する。	●食品偽装問題を報じる新聞記事から、消費者問題について考える。		◆社会で起きる事件・犯罪とお金との関連について考える態度を身に付ける。	★消費者が注意すべき点について関心を持たせる。	・食品偽装問題を報じる新聞記事の紹介
展開	・消費者の権利を守るために行われていることや消費者が心がけることについて理解する。	●悪質商法（消費者問題）の実態について班で調べ学習を行って、分かったことを共有する。 ●商品を選ぶ際に消費者が大切にすべきこと、商品を提供する際に会社側が大切にすべきことを考える。		◆消費者基本法について理解し、消費者の権利や責任について知り、日常生活に活かす態度を身に付ける。	★消費者の四つの権利や消費者基本法の内容について触れる。 ★消費者の立場に立つことで、企業が果たすべき役割があることに着目させる。	・消費者問題の実態に関する資料 ①悪質商法の実例 ②破産した人の体験談 ③クーリングオフの実例
まとめ	・消費者保護の仕組みについて理解する。	●消費者の権利を守るために政府が行っていることをまとめる。		◆製造物責任を理解し、商品の購入・使用の際に活かす態度を身に付ける。	★消費者主権の考えが大切なことを理解させる。	・製造物責任法による裁判事例の紹介

○ 本時の展開（第5時） SCENE5 企業って何だろう？

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

本時（第5時）の目標 ア 資本主義経済における企業活動の仕組みについて理解する。

イ 会社プレゼンを通して、社長になるか従業員になるかを選択する。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・資本主義経済を成り立たせている企業について興味・関心を持つ。	●生産活動を担っている企業の目的を考える。		◆企業が様々な資源を元に、財やサービスを生産していることを理解させる。	★目的として利潤を得ることがあることに着目させる。	・生徒たちがよく知っている企業のHPの紹介
展開	・利潤が多く生まれそうな会社、画期的な技術革新が生まれそうな会社などを見極めて、社長になるか従業員になるかを選択する。	●どのような商品をつくりたいかを1人1分の時間内で発表する。 ●全てのグループが会社についてのプレゼンを行った後に、社長になるか従業員になるかを選択する。		◆計画通りに利潤を上げ、倒産する可能性が低い企業には就職希望の労働者が集まるのを理解する。	★全員のプレゼンが難しい場合は社長希望7人程度のメンバーを事前に選ぶ必要がある。	・企業活動の仕組み図の説明 ・個人事業計画書
まとめ	・会社組織の役割について理解する。	●初めての会社の会議（社長所信表明、役職決め）を行う。		◆企業は社長のリーダーシップの下に運営されていることを理解させる。	★司会は社長が行い、決定権も社長にあることに触れる。	・初会議メモ

○ 本時の展開（第6時） SCENE6 株式会社とは何だろう？

授業の流れ：全ての流れでワークシートを使用する。展開の一部は教科書等を用いて行う。

本時（第6時）の目標 ア 株式会社の仕組みについて理解する。

イ 新聞などのメディアから経済社会に関する情報を得る習慣を身に付ける。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・株式会社について興味・関心を持つ。	●株式会社に関する動画を視聴して分かったことをメモする。			★動画の内容を教師は簡潔に板書する。	・NHK for school動画『株式』を視聴
展開	・株式会社の仕組みを理解し、株主の役割について考える。 ・同じ銘柄の株式の株価が日によって変動していることを捉えさせる。	●株式会社・株主総会の仕組みについて調べる。 ●株価が変動する原因を考える。		◆お金を投資することの生活設計上の意味を理解する。 ◆新聞などのメディアから経済社会に関する情報を得る習慣を身に付ける。	★株主が出資した金額以上の負担は負わない有限責任について理解させる。	・株式会社の仕組み図を説明 ・数日間の新聞記事を使って同じ銘柄の株価の比較
まとめ	・本時の学習を自分の考えている商品と関連付けで捉える。	●会社事業計画書を作成する。（1回目）		◆会社の機能について、企業づくりを通して実践的に理解する。	★資本金は1人につき1,000円として考えさせる。	・会社事業計画書（商品名・商品の内容やねらいとする顧客の部分を記入）

○ 本時の展開（第7時） SCENE7 企業は社会に対してどのような責任を負っているのか？

授業の流れ：全ての流れでワークシートを使用する。展開の一部は教科書等を用いて行う。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・現代社会の中で、企業に求められている責任について興味・関心を持つ。	●東アジアのマングローブ植林プロジェクトについて考える。			★利潤追求が目的の企業が、なぜこのような活動を行っているか考えさせる。	・マングローブ植林プロジェクトの写真を掲示
展開	・「企業の役割と責任」として、①人々が必要とする安心な財やサービスを生産すること、②公正な経済活動を行うこと、③雇用の安定、④福利厚生、⑤環境への配慮、⑥社会貢献の6点について理解する。	●企業に求められている社会的責任について6点に分けてまとめる。 ●学んだことを生かして自分の会社で「企業の社会的責任」を果たすとしたらどのようなことをしたいか考える。		◆社会的責任について、企業づくりを通して実践的に理解する。 ◆コンプライアンス（法令遵守）について配慮する企業の姿勢について理解する。	★具体的には、社会活動に参加する（ヒト）、環境に配慮した商品開発（モノ）、地域での文化イベント（コト）などを考えさせる。	・障害者を積極的に雇用している企業の紹介
まとめ	・本時の学習を自分の考えている商品と関連付けて捉える。	●会社事業計画書を作成する。（2回目）			★前時の続きとこんな企業でありたいと思う項目を話し合わせる。	・会社事業計画書（こんな企業でありたいと思う項目）

○ 本時の展開（第8時） SCENE8 商品はどのような経路で消費者の手もとに届くのだろうか？

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・「分業と交換」に着目できるようにする。	●和牛を自分で育てて手に入れるにはどのくらいの費用がかかるかを知る。		◆「分業と交換」について捉えられるようにする。	★償却費などの難しい用語は教師が説明する。	・松阪牛の写真（その年の優秀賞を受賞した牛と値段）
展開	・商品の流通の仕組みについて理解する。 ・流通の合理化のため様々な方法がとられていることを理解する。 ・流通の費用や手間を省く方法を考える。	●スーパー・マーケットなどの小売業者がどこから商品を仕入れているかまとめる。 ●流通費用をおさえるための方法について考える。 ●自社の仕入れで工夫できることを考える。		◆商品の流通を専門的に行うのが、卸売業や小売業などの商業であることを理解する。	★卸売業や小売業などの商業の活動が輸送費や人件費などの費用（コスト）や手間を省く上で重要な役割を果たしていることを捉えさせる。	・生鮮食品が消費者に届くまでの図の説明 ・コンビニエンスストアのPOSシステムの説明
まとめ	・本時の学習を自分の考えている商品と関連付けて捉える。	●会社事業計画書を完成する。（3回目）		◆企業づくりを通し、会社経営の仕組みや工夫の必要性を理解する。	★原材料費の工夫という点で、本時の学習を生かす。	・会社事業計画書（原材料費の工夫の部分）

○ 本時の展開（第9時） SCENE9 労働の意義と労働者の権利にはどのようなものがあるのか？

授業の流れ：導入・まとめでワークシートを使用する。展開は教科書等を用いて行う。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・私たちが働く目的について世論調査を基に捉え、労働について興味・関心を持つ。	●労働が持つ重要な目的を考える。 ●社会的分業としての意義について理解する。		◆収入を得ることが生活の安定のために必要であることを理解する。	★仕事を通しての自己実現や一緒に働く喜びなどにも気付かせる。	・働く目的に関するデータの紹介
展開	・労働基準法などの労働三法や労働組合の役割について理解する。 ・仕事と家庭生活や地域生活とを両立できるワーク・ライフ・バランスについて理解する。	●労働基準法の主な内容について理解する。 ●労働災害の実態について理解する。 ●「社会における分業」について触れる。		◆賃金などの労働条件は労働者と使用者との間で、契約として自由に取り決めるなどを理解する。 ◆勤労の意義と社会における役割、及び勤労の権利と義務について理解する。	★労働条件の維持・改善及び経済的地位の向上を主たる目的として、労働組合や労働三法があることに気付かせる。	・労働基準法の主な内容の確認 ・過労死に認定された裁判の新聞記事の説明
まとめ	・本時の学習を自らの働く目的と関連付けて考える。	●従業員募集広告をつくる活動を行う。			★賃金、労働時間、休日や休憩などについて盛り込ませる。	・自社の従業員募集広告記入 ・実際の従業員募集広告確認

○ 本時の展開（第10時） SCENE10 労働をめぐる課題にはどのようなものがあるのか？

授業の流れ：展開・まとめでワークシートを使用する。導入は教科書等を用いて行う。

本時（第10時）の目標

ア 現代日本の労働や雇用に関する特色と課題について理解する。

イ 自分の企業内における雇用の問題に対して解決策を考える。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・現代日本の労働や雇用の特色や課題について興味・関心を持つ。	●年越し派遣村の新聞記事から、労働者をめぐる課題について考える。		◆ニートやフリーターについて考える。	★日本の労働者の約4割が非正規労働者であることに触れる。	・年越し派遣村の新聞記事 ・正社員と非正社員の平均年収
展開	・社長の提示する労働条件と自分の提示する労働条件の折り合いを考え、働きやすい職場とはどのような職場であるのかを考える。	●会社の経営には従業員が仕事を通じて生きがいを得られるようにすることが大切であることを知る。 ●模擬労使交渉の話し合いを受けて、今の会社を続けるか辞めるか判断する。		◆労働に関する問題について幅広く関心を持つ。 ◆収入を得ることが生活の安定のために必要なことを理解する。	★社長は簡単に妥協せずに会社の経営を大事に考えさせる。 ★辞める場合には教師が「転職」をサポートする。	・模擬労使交渉メモを記入
まとめ	・労働者の立場で学習していることを会社づくりと関連付けて捉える。	●自分の会社の営業プレゼン資料をつくる。			★次時に会社の営業プレゼンに行かせるので準備を行わせる。	・営業プレゼン資料を作成

○ 本時の展開（第11時） SCENE11 企業間の競争にはどのような役割があるのか？

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

本時（第11時）の目標

ア 企業間の競争が私たち消費者に与える影響について理解する。

イ 独占や寡占の状態や、健全な競争を維持するための法律や機関を理解する。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・企業間の競争が私たちの生活に影響をもたらしていることに興味・関心を持つ。	●牛丼を昼に食べるとして、価格・味・使われている肉が違う3店の牛丼からどの店の牛丼を選ぶか考える。			★現在の自分が昼食に使う料金を考えて選ぶ。	
展開	・企業間の競争に勝つために多くの企業が海外に進出していることや、企業同士の合併や提携をしていることを捉える。 ・独占や寡占の状態や、健全な競争を維持するための法律や機関を理解する。	●企業間の競争に勝つための方法を考える。 ●他社の考えている商品を知り、企業同士の合併や提携を検討する。 ●世の中から企業間の競争が無くなったらどうようになってしまうか考える。		◆独占や寡占の状態では、価格競争が弱まり、消費者に不利益が生じることがあることを理解する。	★自分が企業の経営者として、商品値下げをしなくて済む方法を考えさせる。	・飲料会社の似たような商品のそれぞれの値段の比較
まとめ	・本時の学習を自社のさらなる利潤拡大の意図と関連付けて捉える。	●他社と経営統合するか判断する。		◆利潤拡大のために経営統合という手段があることを理解させる。	★企業間の競争に勝つための方法の一つとして、技術革新の話等を絡めて、互いに提携できるかを探らせる。	・平成20年以降に大型合併をして成長している企業の紹介

○ 本時の展開（第12時） SCENE12 金融機関はどのような時に利用すべきか？

授業の流れ：全ての流れでワークシートを使用する。展開の一部は教科書等を用いて行う。

本時（第12時）の目標

ア 金融の仕組みについて理解する。

イ 金融機関が行っている仕事について理解する。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・銀行などの金融機関がどのような仕事をしているのかについて興味・関心を持つ。	●お金を貸したり預かったりする金融機関について知る。		◆金融機関の種類と機能について理解する。	★銀行のほかに信用金庫、生命保険会社などがあることを理解させる。	・市町村にある身近な銀行や信用金庫の店舗の写真
展開	・金融の仕組みや働きについて理解する。 ・日本銀行の3つの役割や景気変動を安定させる金融政策についても理解する。	●金融機関の働きについてまとめる。 ●金融の仕組みが働くと良い点を考える。 ●預金通貨の仕組みについて知る。 ●日本銀行の役割についてまとめる。		◆間接金融、直接金融の仕組みについて理解する。 ◆中央銀行の機能について理解する。 ◆中央銀行が行う金融政策について理解する。	★為替の仕組みについて触れる。 ★日本銀行の「発券銀行」、「政府の銀行」、「銀行の銀行」の3つの役割を理解させる。	・金融の働きに関する図の説明 ・日本銀行の金融政策に関する図の説明
まとめ	・本時の学習を自分の考えている商品と関連付けて捉える。	●自社の資本金だけで足りるか確認し、架空の銀行からお金を借りるか判断する。		◆ローンの仕組みと機能について理解する。	★自社の経営方針が金融機関の信用に足るかどうかを考えさせる。	

○ 本時の展開（第13時） SCENE13 実物販売会に向けて最終準備をしよう。

授業の流れ：展開・まとめでワークシートを使用する。導入は教科書等を用いて行う。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・企業を取り巻く環境が様々な理由で変化することについて興味・関心を持つ。	●日本の景気や物価に関する新聞記事について考える。		◆景気や物価の変動が人々の生活に影響を及ぼすことを理解する。	★新聞にある難しい用語については教師が説明を行う。	・景気や物価に関する新聞記事の紹介
展開	・自分たちが企画した会社が置かれると予想される状況を考察する。 ・企業の生産活動などに関する今までに収集した資料の中から、課題解決に役立つ情報を適切に選択して活用する。	●景気変動とは何かをグラフにまとめる。 ●インフレーションが自社商品に与える影響を考える。 ●デフレーションが自社商品に与える影響を考える。 ●それぞれの役割に応じて仕事をする。		◆企業づくりを通し、会社経営の仕組みや工夫、努力の必要性を理解させる。	★今まで収集してきた情報を取捨選択して、実物販売会でより良い成果が出るように社長が導くようにさせる。	・景気変動に関するグラフの説明 ・実物販売会プレゼンメモ
まとめ	・資本金集めが実物販売会にて会社の未来を左右することを理解する。	●実物販売会における景気変動への対策を練る。		◆企業は調達した資金によって会社運営を行っていることを理解する。	★たくさん自社商品を買ってもらうという視点で考えさせる。	

○ 本時の展開（第14時） SCENE14 「会社をつくろう」の授業のまとめをしよう。

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・自分たちの企業で行ってきた今までの判断が成果を上げているかを検証する。	●自分たちの企業の収支報告の分析を行う。		◆個人の消費が、結果として企業の経済活動を支える意味を持つことを知る。	★社長が司会を務める形で、会議を行わせる。	・販売会での利益分析
展開	・世界や日本の経済に関する情報を理解し、自分たちが企画した会社が置かれると予想される状況を考察する。 ・今までの学習の総括をし、個人や企業の経済活動について振り返る。	●グローバル化が進む中、日本の産業と自社の未来について考える。 ●今までの学習を振り返って、考えたこと学んだことを書き、会社の中で共有する。		◆グローバル化や情報化の進展に伴い、起業の必要性が高まっており、それを支える金融の働きが重要であることや、今後様々な形態の起業が市場の拡大や多様化を促し、新たな雇用を創出することが予測されていることについて考えさせる。	★良いと思った会社や売り上げが多かった会社と自分の会社を比較させ、意見を述べさせる。 ★企業の収支の分析が「企業会計」の主な目的の一つであり、企業・投資家・株式市場にとって重要であることを認識させる。	・海外に市場を展開する自動車会社の紹介HPの紹介
まとめ	・会社としての総括は社長が行っていることを理解する。	●社長の引退表明を行って、起業体験を終える。			★従業員の思いを受けた上で、社長が語るようさせる。	・授業の振り返りシート記入

○ 本時の展開（総合 第1時） Project1 実際に起業している方から会社について学ぼう。

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・自分たちの会社をつくることを踏まえて、起業をしている方の話を聞くことに興味・関心を持つ。	●本時の取り組み方について予め説明を聞く。 ●事前に作成した個人事業計画書を再確認する。			★事前に企画した商品が売れる自信があるか全体で共有する。	・個人事業計画書
展開	・起業の際の心構えやアドバイスを受けたことを参考にして、調査内容の解決に向けての基礎的・基本的な内容について理解する。	●実際に起業をしている方から会社運営についてのエピソードを聞く。 ●招聘した企業が実際につくっている商品の紹介を受ける。 ●疑問に感じた点を質問する。		◆実際に起業をしている方の話を聞くことを通して、勤労を実感し、情報を収集し、将来就きたい職業について考える。	★ゲストティーチャーは地元の企業で、工場で大量生産を行う企業よりは、身近なアイデア商品を生み出す企業が望ましい。	・講演メモの記入
まとめ	・自分が考えていた商品の内容を再検討する。	●今回の話を聞き、提供しようと思うモノやサービスをどのようにするか書く。			★今回の話を聞き、自分が考えていた商品の売れ行きに関する自信がどう変化したかを共有する。	

○ 本時の展開（総合 第2・3時） Project2① 実物販売会の準備を行おう。

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・実物販売会で一番収益を上げるために事前の準備が大切であることを知る。	●実物販売会に向けて、それぞれの役割分担を明確にする。			★会社が組織として動いていることに触れる。	
展開	・企業の生産活動などに関する今までに収集した資料の中から、課題解決に役立つ情報を適切に選択して活用する。	●それぞれの役割に応じて仕事をする。 ①社長・副社長・広報……全体のまとめ、プレゼン ②会計・仕入れ……原材料費について ③製作代表……実際の商品制作 ④販売代表……販売計画について		◆企業づくりを通し、会社経営の仕組みや工夫、努力の必要性を理解させる。 ◆企業は調達した資金によって会社運営を行っていることを理解させる。	★今までに収集した情報を取捨選択して、実物販売会でのより良い結果に社長が導くようにさせる。	・実物販売会プレゼン原稿用紙 ・販売計画について
まとめ	・課題解決に向けて会社内では会議が頻繁に行われていることを知る。	●次回までに行うことについて会議を行う。			★次回まで時間があるので、社長は従業員に実物販売会に向けて定期的な進捗報告を求めるようにさせる。	

○ 本時の展開（総合 第4・5時） Project2② 実物販売会の準備を行おう。（商品完成）

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・課題解決に向けて社員の仕事の進捗状況の把握が大切であることを知る。	●本時までにそれが行ってきたことを確認する。			★本時で実物販売会の大半の準備を終えることを徹底させる。	
展開	・企業の生産活動などに関する今までに収集した資料の中から、課題解決に役立つ情報を適切に選択して活用する。	●それぞれの役割に応じて仕事をする。 ●接客担当の時間割など実物販売会での動きを確認する。 ●CMの時間や内容について会議を行う。 ●自社の販売場所のレイアウトを考える。 ●従業員の給料について確認する。		◆企業づくりを通し、会社経営の仕組みや工夫、努力の必要性を理解させる。	★それらの役割分担が非常に大事になることを理解し、社長は計画的に指示を出し、CM製作と商品づくりに特に人員を確保させる。	・実物販売会プレゼン原稿用紙 ・販売会での動き（担当割）について ・CMの時期や内容について ・販売場所のレイアウト
まとめ	・課題解決に向けて社員全員で最終確認を行う。	●実物販売会までに行うことについて会議を行う。			★終わらなかった点については社長の指示の下に進めさせる。	

○ 本時の展開（総合 第6・7時） Project3 実物販売会を行おう。

授業の流れ：ワークシートを使用して授業を進める。

	・学習内容	●学習活動		◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他（資料等）
導入	・最大限の効果を上げる方法を社員全体で共有する。	●実物販売会までの準備を行う。			★体育館での準備は手際よく行わせる。	
展開	・模擬的な好景気や不景気が起こる中で、自分たちが企画した会社が置かれるであろう状況を事前に予想して会社運営を行う。	●実物販売会を行う。CMもステージ上で行う。 ●好景気の時間では各企業に補助金を渡す。 ●不景気の時間では各企業から売り上げの一部を回収する。		◆個々人の消費や支出の行動が企業や社会に与える影響について考えさせる。 ◆個人の消費が、結果として企業の経済活動を支える意味を持つことに気付かせる。	★実際に販売を開始すると、景気変動への対応を含めて社長の判断が重要になる。値下げや客引きなど、様々な判断を行わせる。	・実際の商品 ・店の看板 ・机、椅子 ・CM原稿 ・その他必要なもの
まとめ	・自分たちの企業で行ってきた今までの判断が成果を上げているか検証する。	●経理担当を中心に売り上げを計算する。 ●残りの社員は片付けを行う。		◆持続可能な企業経営のために、収支報告が必要であることを理解させる。	★社長と会計担当の二人で収支報告を行わせる。	・収支報告書

○教材・資料等

(1) 公民的分野教科書対応表（平成27年度検定済み7社）

授業	自由社	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院	日本文教出版	育鵬社
SCENE 1							
SCENE 2							
SCENE 3							
SCENE 4							
SCENE 5							
SCENE 6							
SCENE 7							
SCENE 8							
SCENE 9							
SCENE 10							
SCENE 11							
SCENE 12							

※SCENE13・SCENE14・Project1・Project2・Project3については、対応する教科書のページを記入する欄をワークシートに記していません。なお、SCENE1～12を通じて、表は参考ですので、指導に当たっては予め、それぞれの学校で使っている教科書のページを確認してください。

(2) 実物販売会について

この単元計画では、体育館を地域に開放してバザー形式で製作した商品を販売することを想定しています。実際に販売を行うまでにこぎ着けるには非常に苦労が多いと思いますが、生徒に与える影響は非常に大きいものです。同じような取り組みを行おうと考えている先生が考えるべき6点を以下に記します。

① 管理職とよく相談の上、この取り組みの必要性を職員会議などで同僚の先生方に分かってもらいましょう。

年度初めまでに管理職に相談しましょう。その際、①起業家教育の意義、②理解を求める事項（お金を使うこと、販売会を体育館で行うこと、その日程案、外部から人が来ることなど）、③学習の流れ、④授業のねらいを記載した文書を作成して説明するとよいでしょう。その後、職員会議や学年会などで丁寧に説明しましょう。

② 地域の企業や役所などに授業への協力を打診しましょう。

教員1人では商品製作の指導は大変です。そして、効果は外部の人が入ると一層増すものと実感しています。できれば①の文書を早めにつくり、実践が2学期であると仮定して1学期は様々な機関や企業にPRしに行く期間としましょう。計画的に相談して外部の協力を求めてることで、より良い学習の展開が期待できます。

③ 実際に販売する商品については？

この単元計画の実物販売会で食料品を扱おうとすると、他の先生の理解を得られない可能性があります。衛生上問題があるという訳ではなく、生徒指導上の観点から受け入れてもらえないことがあります。地域の特性から食料品を扱うことになる場合には、管理職や学年会でしっかり議論しましょう。サービスの提供よりモノをつくって販売する方が理解を得やすく、持続可能な行事として定着します。

④ 販売会では実際にお金を使用します。

年度初めに1人当たり1,000円を「総合的な学習の時間活動費」として学年会計に計上するとともに保護者会等で説明を行った方が丁寧です。その際には、領収書をきちんと保管するなど当該活動費を適切に管理するとともに、会計報告を確実に行う必要があります。

なお、販売会の際には、商品の価格を100円単位や何個で300円などと設定させ、すべて100円玉で売買を行わせた方が、計算が容易でスムーズです。事前に両替するなどの手間はかかりますが、後が楽になります。

⑤ 販売会で電源を使う場合は？

体育館の中でブースを割り当てる際、電源を使う企業を予め一定のエリアに集めておくと、電源の確保が容易なことがあります。なお、ブレーカーが落ちる場合があるので、予め各企業の機材の使い方をよく確認してください。なお、販売会時には、ステージ上にて時間を区切ってCMを行わせることを想定しています。

⑥ 授業のイメージがどうしても湧かない場合は？

以下の小論文を参考にしてください。年間指導計画などを細かく載せています。
 小谷勇人『中学生に起業家精神を養い育てるための授業実践～地域人材の活用から見える経済分野においての社会参画～』
https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/2014/pdf/14kyoin001.pdf
 (本作品は、「第11回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール（2014年）」（主催者：金融広報中央委員会）の特選受賞作品です。)

(3) 授業全体のプランについて

生徒に起業家精神を養うために、『私たち中学生で会社をつくろう』ではワークシートすべてを行うことを推奨します。しかし、現場の実態によっては時数が足りなくなる場合が想定されます。そのような時に、ワークシートの内容から抜粋して授業を行うことができるようプランを3つ以下に示します。

なお、時数はすべて社会科で減らす時数です。総合的な学習の時間の時数はそのまま行ってください。

Aプラン … すべて実施する。 時数…14

Bプラン … 消費者教育の部分は他の手立てで行う。

SCENE3 と SCENE4 は行わない。 時数…12

Cプラン … 消費者教育と労働関係の学習部分は他の手立てで行う。

SCENE3、SCENE4、SCENE9、SCENE10 は行わない。 時数…10